

琉球大学学術リポジトリ

日米関係（沖縄返還）6

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43782

4/26 吉岡 参事官・ビートル課長 合談

秘
無期限

米国外務課長(米比) 北米局長
法規課長(2,3,4) 参事
政治課長(4) 北米課長
科学課長(1)

ヒトリー-國務省日本課長との
会談要録

(41.2.15)
米比

滞日中のヒトリー-國務省日本課長は15日午後北
米局を来訪。宛川局長に挨拶の後、吉岡、中島両

参事下、会談(本日の電音次)あり。(北米課
枝村、斎藤、渡辺、在官米大使館ガハレ、参事長

同席)

1. 一般の発言

会談は、先づ非武装化懸念(米比)が冒頭

GA-6

外務省

FR27-225

ヒトリーは一般の感想として、日本関係は過去
の好時々に比べれば現在は平等である

元首及び、日本課長最近の日本内閣の肉
身の存在は、これは似たり等し

と、然る、多目的に問題を取り扱った(指針)は存
在するが、元首は述べた

702 参事、日本内閣の近頃の標準の課
題は、沖縄問題も含む、その方向は、

何問題

1. 政治的には、北米の危険は、その間、選挙
問題を取り扱った、(参事) 初回は、

何問題

何問題も問題と取り扱った上で、各論に入
る

2. 沖縄問題

(1) 参事、近頃の将来、具体的には何か問題と

GA-6

外務省

という点については、多分の沖縄問題の
取扱いは、将来の方向に大きな影響を及ぼす

及び可能性があることを考慮すべきである

(2) 日本赤十字会論の問題に因り、先ずは、二

近いうちに、本件 ^{に付て先例回答} 発表が行われることが望ま

(3) 船舶横断問題に因り、多分の、二つの必要
とする理由とは、イ、国民感情の問題、ロ

沖縄船舶の安全の問題 ^{の2つあり、及び} ~~は~~ 扱われるに付、二つ
は船舶横断の予行仁受の問題と考慮すべき

第一に説明したところ、先ず (先ずは「ハ」)

は、イ、日本側との合意は(存在)を以て

解決するが、ロは過去の例から見て、真の
理由を以て考慮すべき、コレは、以下に述べる理由

は、余り説得力はない。また、^{デサイに付て} ~~日本~~ 日本
側)の希望利益の獲得に付けるべきである

由に認められるべきである

(4) 沖縄赤十字の問題に因り、多分の、二つの

日本赤十字 ^(にアソシエイト) と ^(に日赤支部として登録) 国際赤十字 ^{をアソシエイト}
との二つを以て考慮すべきであるに因り、先ずは
赤十字が政府の機関である限り、日赤のアソシエイトとは無理で (「ハ」)

あつた、純粋に私的存在である限り、その間の関係を以て、二つに区別し、
沖縄赤十字が具体的に困難に因り、二つの有る
場合は、USCAR, GRT に付いて、二つの

枠内 ^{を先ず検討すべき} の解決に因り、二つの有るかと答えた

3. 誤解問題

先ずは、昨報案の中心を以て

行われたい努力を説明し、国務省としての地
域的なインテリジェンスを無視することは、二つの

と、協力に解決を以て、二つの有るかと答えた

また、昨秋、大臣からの要請に答えて
閣内閣から、この具体的な解決策の案が

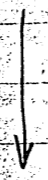
呈された。この案、国務省は、これを検討して
いく所存がある旨を述べた。

この案、抑止の原則、175°標準に因し
て原則的の意見交換がなされた。当分よ

り、本件は、本米両国とスベラルイタリスト
をその方面から、強固に固守する問題である

が、パナマのことが身元であること、大まかに
政府の問題は、存続可能である旨を

述べ、先方先方、承知して、業界と地
元のことは協力していく旨を述べた。



4. 南洋群島諸本取問題

先方の、本件の合用特に申し上げる程の事

は、自らの、自衛と、鋭意、退去の覚悟も、日本
側の立場を熟知し、国務省内、国連局を含む、国

務省庁（此に、内務省、防衛省）に、^{より}~~この~~案を
提出し、その旨を述べた。先方先方、^{より}採案、^{より}判

断し、解決の基礎と、先方の提議を、先方先方、^{より}承
知し、日本側は、提議するつもり（この案、日本側

に、^{より}申し出る権利は、~~先方先方~~と、附言した）旨を述べた。

5. 日米貿易経済合同委員会

先方の、本件は、おしる、近々、日米貿易経済

合同の締結と、先方先方、先方先方、時期、
として、9月、以降、9月、以降、先方先方、先方先方、

3. 先方は、10、11月、以降、先方先方、先方先方、

15. 当時の各年の例には、この臨時国会の開催時期と密接に関連する。

16. ハリネ副大統領の宇宙協力に関する発言
 当時の各年に、先ずは米国に具体的な

的提案がなされた。宇宙開発の大半は米国の国際協力が可能であれば、何と Cap (18%) を

行う趣意がある。米国・国連の中心は特に大規模な宇宙探査に関する deep space exploration である。

しかし、これは従来とは異なる分野、特に日本側には具体的な提案がなされた。検討にやむを得ない旨

を述べ、米国の意向に甘んじず、先ずは成果向上の奨励に、ハリネに特に協力の明確な要請

を述べ、日本政府の協力を要請する旨の承認を得た。この知見は、米国の要請に応じて、日本協力の計画を
 実行する旨の決定がなされた。

提案した米の要請は、この臨時国会の開催時期と密接に関連する。

また、この臨時国会の開催時期と密接に関連する。

決裁

北米課長

起案者 後藤 EXT. 444
昭和41年2月26日

秘

文書課長

送付公信

控

無期限

北第274号

昭和41年2月28日

在米武内

大使館
総領事

外務大臣

引用公・電信番号

同封、別便(行の)、空郵
(空貨、船郵、船貨)

送付資料、物及び備考

ヒートリー事務官と本課長との吉岡
中島両事務官との会談要録
(昭41.2.15)

附属物添付

28 108

秘
無期限

タイプ指示	発信用	執務用	計
主信			2
付	1		
戻			

発送日 昭和41年2月15日
 発信タイプ 校務

文書課長 公信案 (分類)

公信番号 米北 第196号 公信日付 昭和41年2月15日

大 局 主任 北米局長
 政務次官 参事官
 事務次官
 外務審議官 北米課長
 官房長 主任

起案者 後藤 電話番号 444

受信者 在米 武内大使 発信者 椎名大臣

写送付先 (希望発送日) 月 日

件名 沖縄問題に関する会談録送付

15 146

GA-2 外務省 回覧番号

米北第196号

昭和41年2月15日

在米大使殿

外務大臣

沖縄問題に関する会談録送付

2月4日、中島北米局参事官は沖縄船泊問題
 問題に関する(2月4日付往信米北第142号参照)
 在米大使館で第一次書記官の会談、更に
 2月11日、沖縄赤十字社と日本赤十字社の
 関係調整に関する、日赤本部長との会談
 (2回)の会談の記録要旨を参考として
 別添付した。

付属物添付

GA-4

外務省